

# はちおうじせんになんどうしん 八王子千人同心



▲せんになんがしら いしざかやじ えもん ひだり かつたりめ 石坂栄夫氏提供)

## はちおうじせんになんどうしん 八王子千人同心とは

みなさんが修学旅行に行く日光は、八王子千人同心が縁で八王子と姉妹都市になっているのを知っていますか。千人同心は幕府から命じられた公務(仕事)をする時以外は、畑仕事や剣術の稽古をするなど、半分武士、半分農民の集団でした。土農工商という身分制度が確立されていた江戸時代には珍しいことです。江戸時代のほとんどの期間、交代で日光の警備をしたほか、北海道の開拓に従事したりしています。また、江戸時代の八王子を知るうえで、貴重な資料も残しています。

さて、八王子千人同心とは、いったいどんな人たちで、どんな活躍をしたのかいっしょに調べてみましょう。

## はちおうじせんにとんしん お 八王子千人同心の起こり

千人同心の前身は、甲斐の国(今の山梨県)の戦国大名・武田氏の家来で、小人頭に率いられ、甲斐の国境を守る軍事集団でした。武田氏が滅んだ後、徳川家康の家来となります。天正18年(1590年)に北条氏が滅亡し、家康が関東を治めるようになると、この同心250名ほどが治安維持のために八王子城下に、その後江戸の守りを固めるために、今の千人町辺りに配置され、同心は500人に増えました。さらに慶長5年(1600年)には、関ヶ原の戦いに備えて1000人となり、八王子千人同心と呼ばれるようになったのです。その組織は、千人頭と呼ばれる旗本(将軍に会うこともできる)が10人いて、それぞれの千人頭が100人の同心を統率していました。



▲千人同心屋敷跡の碑

## せんにとんしん にんむ 千人同心の任務

千人同心の給料は現金ではなく、米で支払われました。千人同心は幕府から年間10~30俵ほどの米をもらって、これをお金に換えるほか、食べる分の米も支給されていました。千人同心は関ヶ原の戦いや大坂の陣にも参加し、江戸時代はじめころまで江戸の守備部隊という役割を持っていました。ところが世の中が平和になってくると、その意味がうすれ、将軍が京都にのぼる時の警護などを命じられ、後には日光の警備などが主な任務となっていきました。

## にっこう ひ ぼん 日光 火の番

慶安5年(1652年)に千人同心は日光火の番を命じられ、交代で日光の警備にあたります。期間は、千人頭2人と同心100人で50日間、のちに千人頭1人に同心50人で半年間に改められます。主な任務は日光山内の見回りや火事の消火活動。八王子から埼玉、栃木を経て約160kmを4日間かけて歩いていきました。

幕末になると、徳川幕府を倒すために官軍が日光を攻めようとしてきました。この時、日光にいた千人頭・石坂弥次右衛門は、抵抗せずに日光を明け渡し、そのおかげで日光は焼かれずにすみました。ところが、石坂が八王子に戻ってくると、これを責められ、石坂は切腹してしまいます。

はちおうじせんにんどうしん にっこう まも しょうわ ねん ねん はちおうじし  
八王子千人同心が日光を守ったことをきっかけに昭和49年(1974年)には、八王子市  
と日光市が姉妹都市になっています。

## ほっかいどう かいたく 北海道を開拓して

また、鎖国<sup>さこく</sup>といって、中国<sup>ちゆうごく</sup>とオランダ<sup>ぼうえき</sup>としか貿易<sup>ぼうえき</sup>をしていなかった江戸時代<sup>えどじだい</sup>も後半<sup>こうはん</sup>になると、蝦夷地<sup>えぞち</sup>(今の北海道<sup>ほっかいどう</sup>)にロシア<sup>ろしあ</sup>の船<sup>ふね</sup>がやって来るようになり、幕府<sup>ぼくふ</sup>はこの蝦夷地<sup>えぞち</sup>を国<sup>くに</sup>を守る<sup>まも</sup>うえで重要<sup>じゅうよう</sup>と考え<sup>かんが</sup>えるようになります。そんな時期<sup>じき</sup>に千人頭<sup>せんじんがしら</sup>・原半左衛門<sup>はらはんざえもん</sup>は、蝦夷地<sup>えぞち</sup>を守り開拓<sup>かいたく</sup>するために、千人同心<sup>せんにんどうしん</sup>の次男<sup>じなん</sup>や三男<sup>さんなん</sup>などの子弟<sup>してい</sup>を連れて行く<sup>つ</sup>ことの許可<sup>い</sup>を幕府<sup>ぼくふ</sup>に求めました。寛政12年<sup>かんせい ねん</sup>(1800年<sup>ねん</sup>)に、同心子弟<sup>どうしんしてい</sup>を率<sup>ひき</sup>いて勇払<sup>ゆうふつ</sup>(今の苫小牧市<sup>とまこまいし</sup>)や白糠<sup>しらぬか</sup>(今の白糠町<sup>しらぬかちょう</sup>)に向けて出発<sup>む</sup>し、畑<sup>しゅつぱつ</sup>を作<sup>はたけ</sup>ったり道路<sup>つく</sup>を切り開<sup>どうろ</sup>いたりすることを始め<sup>き</sup>ます。ところが、厳しい寒さ<sup>さむ</sup>や病気<sup>びょうき</sup>などで、多くの犠牲者<sup>おお</sup>が出たために数年<sup>ぎせいしや</sup>で中止<sup>で</sup>になりました。

千人同心<sup>せんにんどうしん</sup>の蝦夷地開拓<sup>えぞち かいたく</sup>はこのように中止<sup>ちゆうし</sup>に終わりましたが、北海道開拓<sup>ほっかいどう かいたく</sup>の第一歩<sup>だいいっぽ</sup>を記念<sup>きねん</sup>して、苫小牧市<sup>とまこまいし</sup>とは昭和48年<sup>しょうわ ねん</sup>(1973年<sup>ねん</sup>)に姉妹都市<sup>せまいとし</sup>になっています。

## せんにんどうしん ちし へん 千人同心と地誌の編さん

18世紀<sup>せいき</sup>終わりごろの寛政<sup>かんせい</sup>の改革<sup>かいかく</sup>によって、武士<sup>ぶし</sup>には文武<sup>ぶんぶ</sup>(学問<sup>がくもん</sup>と武芸<sup>ぶげい</sup>)の奨励<sup>しょう</sup>い(すすめ、はげますこと)が行<sup>おこな</sup>われました。千人同心<sup>せんにんどうしん</sup>たちは、武術<sup>ぶじゆつ</sup>のけい古<sup>こ</sup>に力<sup>ちから</sup>を入<sup>い</sup>れたほか、文化活動<sup>ぶんか かつどう</sup>もさかんに行<sup>おこな</sup>います。当時の村<sup>とうじ</sup>の様子<sup>むら</sup>や由来<sup>ようす</sup>などをまとめた「新編武蔵国<sup>しんぺん むさしのこく</sup>風土記稿<sup>ふうど ぎこう</sup>」や、千人同心<sup>せんにんどうしん</sup>の歴史<sup>れきし</sup>などをまとめた「桑都日記<sup>そうと にっき</sup>」など、江戸時代<sup>えどじだい</sup>の八王子<sup>はちおうじ</sup>や多摩<sup>たま</sup>の様子<sup>ようす</sup>を知るうえで、貴重な資料<sup>きちよう しりょう</sup>が作<sup>つく</sup>られました。



▲ やり くんれんふうけい (『そうと にっき ごくらくじほん』  
槍の訓練風景(『桑都日記』極楽寺本より)

## しらべてみましょう

ひとつのテーマについて調べる時、何冊かの本を調べることは、とても大切なことです。次にあげる参考文献は、図書館にある本の中で、小・中学生のみなさんにもわかりやすいものです。自分で調べ、まとめてみましょう。市内のどの図書館に所蔵しているかは館内OPACで検索、または職員へおたずねください。

※☆印のついているものは、特に小学生におすすめのものです。

『はちおうじの教育』(パンフレット) 八王子市教育委員会／編

No. 25 「成り立ち」、No. 26 「身分と公務」

No. 27 「日光勤番とその道中」、No. 28 「蝦夷地入植と地誌搜索」

No. 29 「幕末の千人同心」、No. 30 「組織の解体と静岡移住」

『八王子の歴史と文化』(八王子市郷土資料館展示ガイド)

八王子市郷土資料館／編 1987年

先史時代から近代までの八王子の歴史。図や絵や写真が多い。

☆『こども歴史シート』 八王子市郷土資料館／編

こどもから質問の多い事柄について、やさしくまとめたシート。

☆『千人のさむらいたち～八王子千人同心～』 八王子市郷土資料館／編 2003年

千人同心の成り立ちから解体までが、たくさんの図版や写真を使って

簡潔に解説されている。

☆『八王子千人同心の任務』 樋口豊治／著 1991年

千人同心についてやさしく解説。むずかしい言葉の注記もついている。

『市民のための八王子の歴史』 樋口豊治／著 1998年

旧石器時代から現代までの八王子の歴史を解説。

項目の長さがちょうどいい。

☆『郷土みてある記』 八王子市生活文化部広報課／編 1995年

小学校の先生が、八王子の歴史や、関係の深い人物や動・植物、事柄を

小学生にもわかるようにやさしく解説したもの。

編集・発行 八王子市中央図書館

平成22年(2010年)12月

令和4年(2022年)1月 改訂